

やぶはら高原イベント実行委員会に関する住民アンケートまとめ

●回答者の情報

- ・ アンケート回収数 488 世帯（回収率 47.7%）
- ・ 性別 男性：225 名（46%） 女性：253 名（52%）
- ・ 年代 10～20 歳代：8 名（2%） 30～40 歳代：55 名（11%）
50～60 歳代：211 名（43%） 70 歳以上：209 名（43%）
- ・ 地区 菅：52 名（11%） 藪原：278 名（57%） 小木曾：152 名（31%）

●やぶはら高原イベント実行委員会について

○やぶはら高原イベント実行委員会（以下、イベント実行委員会）について、9 割の方が名前を知っているという結果となりました。しかしながら、イベント実行委員会の活動内容も理解している方は7 割に落ち込みました。各イベントについては、釣り大会・マラソン大会・日曜画家展共に8 割前後の方が名前を知っているという結果になりました。

●やぶはら高原溪流釣り大会について

○やぶはら高原溪流釣り大会（以下、釣り大会）に参加者若しくはスタッフの立場で参加したことがあるという方は、釣り大会参加者の多くが村外の方であることもあり、1 割に留まりましたが、その内、開催時期がちょうど良いと回答する方が8 割となりました。丁度良い理由としては、暑くも寒くもない・夏に向かう時期で釣りに適しているという意見を複数の方からいただきました。一方で、イベントが重なるため変更した方が良いという意見もありました。

○今後（今後も）釣り大会に参加したいかという設問には、7 割の方が参加したくないという回答でした。「釣りに興味がない・釣りをしたことがない」という意見がもっとも多く、その他にも参加費が高い・スタッフの労力（見回り・草刈りなど）が大変であるといった意見も複数いただきました。一方で釣りをする機会が減っているから・村に貢献したいという理由で参加したいと回答した方もいました。

○釣り大会のチラシ・ポスターを見たことがあると回答した方は約6 割となった一方で、ホームページを見たことがあると回答した方は1 割未満となりました。

○釣り大会の今後については、継続すべきと回答した方が3 割、分からない・どちらでもよいという方が約6 割となりました。継続すべきと回答した方は子供や孫となら参加したい・木曾川源流の里として相応しいのでという意見があった一方で、木曾川本流（役場前など）で開催すべき・大手企業など協賛を増やすべき・SNS などを活用して若者へ向けた宣伝が必要などといった意見もいただき、今までと同じ開催形式にこだわらず、工夫をしながら開催をしていく必要があることが分かりました。

●やぶはら高原はくさいマラソン大会について

○やぶはら高原はくさいマラソン大会（以下、マラソン大会）の選手またはスタッフとして参加したことがあるという方が約3割で、三大イベントの中で最も多くなり、時期についても約7割の方が、ちょうど良いと回答しました。

○一方で、今後も参加したいかどうかについては、思うと回答した中では、スタッフとして参加したいと思うという方が最も多くなりましたが、高齢や体力がないといった理由で7割の方が参加したいと思わないと回答しました。

○マラソン大会のチラシやポスターを見たことがあると回答した方は約6割でしたが、大会公式ホームページや木祖村観光ホームページを見たことがあると回答した方はそれぞれ1割未満となりました。

○マラソン大会の今後については、今後も継続すべきと回答した方と、分からない・どちらでも良いと回答した方がそれぞれ約半数ずつとなりました。継続すべきと回答した方の理由として、たくさんの方が参加するイベントだから・木祖村の事を知っていただく（認知度の向上）ことができるからという意見を多くいただきました。分からない・どちらでも良いと回答した方の理由として、赤字なら廃止すべき・運営やボランティアが大変などという声をいただきました。また、自由記載欄には、以前の奥木曾湖の周回コースに戻してほしいという意見を最も多くいただきました。こちらにつきましては、奥木曾湖周回道路の復旧工事が順調に進んだ場合、令和3年度の第34回大会で元のコースに戻せる見込みとなっております。また、梅雨の時期（雨天での開催）は止めた方が良い・近隣の市や町と共同で開催しても良いのではとの意見もあり、村民の方の意見を取り入れながら、村民とランナーの方が一体となれるような大会や老若男女問わず誰もが参加しやすい大会作りをしていく必要があることが分かりました。

●全国日曜画家中部日本展について

○全国日曜画家中部日本展（以下、日曜画家展）に、作品を出品したことがあると回答した方は1割未満となりましたが、回答した方のほぼ全員が時期はちょうど良いと回答しました。日曜画家展に（今後も）作品を出品したいと思うと回答した方は1割未満、思わないと回答した方は、約8割となりました。出品したいと思わない理由としては、絵に興味がない・絵は描かないという意見をかなり多くいただきました。

○また、約4割の方が日曜画家展の展覧会に来場したことがないと回答し、今後は村民の方がさらに来場しやすい、展覧会にしていく必要がある事が分かりました。来場したことがあると回答した方のうち、約6割の方が大変素晴らしかった、または素晴らしかったと回答しました。その理由としては、力作が揃っていたから・毎年レベルが上がっているからという意見を複数いただきました。今後も展覧会に行ってみたいと回答した方は約4割となりました。主な理由として、絵を見るのが好きだから・木祖村で素晴らし

い作品をたくさん見ることができるとい声も多くいただきました。

○日曜画家展のチラシやポスターを見たことがある方は約4割となった一方で、ホームページを見たことがある方は約1割未満となりました。

○日曜画家展の今後については、今後も継続すべきと回答した方が約4割、どちらでも良い・分からないと回答した方は約5割となりました。継続すべきと回答した方の理由としては、知名度が高いから・絵を描く方の発表の場として大切であるから・日曜画家の村で定着しているからという声が多数ありました。一方で分からない・どちらでも良いと回答した方の理由としては、賞ありきの開催に理解できない・同じ人が何年も続けて出品している反面、にぎやかで良いとも思うなどの意見をいただきました。自由記載欄には、審査基準が分からない・村民への周知が足りないといった意見が多くあり、木祖村が「日曜画家の村」であることを改めて村民の方へ周知していく必要がある事が分かりました。

●アンケート結果のまとめと今後について

○イベント実行委員会に関する自由記載欄には、イベントの継続や廃止に関する意見や、活動内容がよく分からないといった意見を多くいただきました。各イベントが開始から30年以上を迎え、村の恒例イベントとなり、郡内はもとより県内外からも多くの方にご参加いただいておりますが、参加者の減少や高齢化が課題となっています。多くの村民の皆様より、様々なご意見やアイデアをいただきましたので、全てを取り入れることは難しいとは思いますが、村民の皆様の目線に立ち、誰もが参加しやすいイベントを目指すことや赤字幅の縮減や経済効果への意識を更に高めることが必要です。

○また、イベント実行委員会の活動内容がよく分からないというご意見も多くいただきましたので、今後はPR媒体についても検討を行い、2か月に1度発行される「広報きそ」やそれ以外の隣組回覧、またホームページやSNSなどを積極的に活用し、1人でも多くの村民の方にイベント実行委員会の活動内容を理解していただけるような工夫が必要です。

最後になりましたが、お忙しいところ多くの村民の皆様に、やぶはら高原イベント実行委員会に関するアンケートにご協力いただきました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

やぶはら高原イベント実行委員会事務局
(木祖村役場商工観光課内)
電話:0264-36-2766 FAX:0264-36-3344